

医療安全トピックス TOPICS

Vol. 97

井上 純子

公益財団法人日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部医療安全課 課長

車いすのフットレストによる外傷に関する 医療事故について

公益財団法人日本医療機能評価機構では、医療事故情報収集等事業（以下：本事業）を行っています。本事業では、医療安全推進のため四半期ごとに報告書を作成し、公表しています。報告書では、報告された事例からテーマを設定し、事例の分析を行っています。

本稿では、2018年10月に公表した第54回報告書の分析テーマで取り上げた、「車いすのフットレストによる外傷に関連した事例」について紹介します。

車いすは、医療機関内でよく使用されており、本事業には、車いす乗車時の転倒など車いすに関連する事例の報告が多くあります。今回は車いすに関する事例の中でも、移乗の介助をした際に、フットレスト（フットサポートとも言う）により受傷した事例について分析を行いました。

●車いすのフットレスト

車いすのフットレストは合成樹脂製品が一般的であり、表面は足を置きやすく平らに加工されています。しかし、裏面は強度の補強のために格子状になっているものが多く、車いすへ移乗する際に跳ね上げると患者や医療者の身体に直接触れる面になります。フットレストに接触すると皮膚を損傷する危険性があります。

●事例の概要

2012年1月から2018年6月までに報告された「車い

すのフットレストによる外傷に関する医療事故情報」は、35件でした。

また、発生場所は35件中24件が病室であり、当事者職種は看護師が最も多く、22人です。看護師は、他の職種に比べ、患者の移乗の介助などに携わる場面が多いためと思われます。

患者の皮膚の状況について、事例内に記載されていた内容を整理すると、「皮膚脆弱」と記載された事例が22件あり、ステロイドの内服中であった事例や浮腫のあった事例などが報告されていました。そのため、フットレストによる外傷を見ると、裂創が23件と多く、大きな影響を患者に与えています（図表1）。

●事例の分類

報告された35件を分類すると、図表2のとおりです。患者が動いた際に受傷した事例が26件と多いですが、医療者が車いすを動かした際に受傷した事例が報告されていることにも注目がが必要です。

1. 患者を支えて移乗した際に受傷した事例

この事例から、医療にかかわった医療者の人数について整理しました。

26件の事例のうち、16件は1名で介助した事例でした。その中には、もともと1名で介助していた事例と、複数名で行うことになっていたが1名で介助した事例